日本泌尿器科学会第 96 回宮崎地方会

第 48 回宮崎大学医学部泌尿器科学教室開講記念会

プログラム・抄録集

日　時　令和 7 年 1 月 18 日（土）**午後 1 時 30 分～**

会　場　ホテル JAL シティ宮崎
　　2 階「オルソ」
　　宮崎市橘通西 4-2-30（℡ 0985-25-2580）

参加費　3,000 円

会　長　賀本敏行（宮崎大学医学部泌尿器科　教授）

日本泌尿器科学会第 96 回宮崎地方会事務局
宮崎大学医学部泌尿器科
〒889-1601 宮崎市清武町木原 5200
TEL 0985-85-2968
FAX 0985-85-6958

～プログラム～

13：30 ～ 14：05 一般演題（1）
座長　向井尚一郎（宮崎大学）

1．宮崎大学医学部泌尿器科教室における 2024 年の臨床統計
　　○石川裕隆　藤永映人　榊 結女　田代尚己　近藤 誠　大橋かすみ　久嶋 嵐
　　小島慎平　植野 尭　伊藤歌織　藤田直子　飛田卓哉　中原 梢　村嶋隆哉
　　藤井将人　永井崇敬　髙森大樹　鬼塚千衣　西本紘嗣郎　澤田篤郎
　　向井尚一郎　賀本敏行（宮崎大学）

2．フマル酸ヒドラターゼ欠損性腎細胞癌の 1 例
　　○久嶋 嵐　前田幸志郎　竹原俊幸（おがわクリニック）

3．ニボルマブ＋イピリムマブ併用療法におけるサイトカイン放出症候群の一例
　　○松隈啓人　木下史生　堀 幹史　黒岩顕太郎（宮崎県立宮崎病院）
　　椎葉律哉　姫路大輔（同　内科）

4．当科における進行性腎細胞癌に対する免疫複合療法の 10 例
　　○佐藤俊介　渋谷寿来　田口圭介　酒井康之（王子総合病院）

5．進行に伴い抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH) と液性悪性腫瘍性高カルシウム血症 (HHM) の腫瘍随伴症候群が生じた前立腺癌神経内分泌変化の一例
　　○阿部純也　村中貴之　國島康晴（砂川市立病院）

14：05 ～ 14：47　一般演題（２）
座長　黒岩顕太郎（宮崎県立宮崎病院）

6．MRI/TRUS fusion biopsy と PSMA-PET が有用であった前立腺癌の１例

○志賀健一郎　内藤誠二　横溝 晃（原三信病院）
寺嶋廣美（同　放射線科）
野々村祝夫（大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学講座）
渡部直史（同　放射線統合医学講座）

7．前立腺 MRI 検査で前立腺癌はどこまで診断できているのか。RARP 術前 MRI と術後病理の比較でわかったこと。

○新村眞司　伊波 恵　池原 在　松元 貢　大橋 望　黒木嘉典　新村友季子
（新村病院）

8．RARP の初期経験

○山崎丈嗣　榎木康人　鶴田雅史　慶田喜文（独立行政法人都城医療センター）

9．橋市立医療センターおよび松戸市立総合医療センターにおける恥骨前立腺靭帯温存ロボット支援前立腺全摘除の治療成績

○武井亮憲　小林和樹　宮本 周　三浦稜太郎　小林洋二郎　北川憲一
（松戸市立総合医療センター）
深沢 賢（船橋市立医療センター）
佐藤信夫（さとう泌尿器科クリニック）
坂本信一　市川智彦（千葉大学医学部附属病院）

10．前立腺癌放射線治療後に発生した左尿管狭窄の１例

○川添智浩　高森大樹（川南病院）

11．当院でのアンドロゲン除去療法・ダロルタミド・ドセタキセル併用療法（triplet 療法）の報告

○木村友哉　三宅那央　上別府豊治（古賀総合病院）

15：10 ～ 15：52 一般演題（３）
座長　山崎　丈嗣（都城医療センター）

12. 膀胱全摘除術、新膀胱造設後に膀胱癌再発を認め、新膀胱全摘除術を施行した一例
　　○宮内大知　内野皓史　松下直樹　大迫洋一　松下良介　吉野裕史　鑪野秀一
　　榎田英樹（鹿児島大学）

13. 肺の転移巣切除をおこない長期予後を得た膀胱癌の一例
　　○尾畑紘史　原口祐介（製鉄記念八幡病院）
　　田中慎吾（済生会八幡総合病院）

14. 筋層浸潤性膀胱癌に対する術前 GC 療法中に脳梗塞を発症した症例の検討
　　○重安哲志　後藤駿介　種子島時祥　塚原茂大　牟田口淳　小林 聡　松元 崇
　　塩田真己　江藤正俊（九州大学）

15. 上部尿路 BCG 注入療法施行中に薬剤性肝障害と播種性 BCG 感染症を生じ集中治療を要した１例
　　○大塚 武　小迫太一　山下康洋（宮崎県立延岡病院　泌尿器科）
　　小野健太　市成直樹（同　消化器内科）
　　畠中健吾　金丸勝弘（同　救命救急科）
　　島尾義也（同　病理診断科）

16. 尿管原発小細胞癌の一例
　　○白川達也　長野正史（藤元総合病院）
　　澤田篤郎（宮崎大学）

17. 原発巣が残存している尿路上皮癌患者の終末期ケア
　　○山崎浩司（宮崎医療センター病院）

— Coffee Break —

15：52 ～ 16：27　一般演題（４）
座長　澤田　篤郎（宮崎大学）

18. 陰茎内転移を来たした陰茎癌の一例
　　○近藤 誠　藤崎友基也　月野浩昌（潤和会記念病院）

19. 後腹膜高分化型脂肪肉腫の４例
　　○持田 学　古林伸紀　貴島惇博　藤本雄史　根岸孝仁
　　（九州がんセンター泌尿器・後腹膜腫瘍科）

20. WAVE およびウロリフトの使用経験
　　○大橋かすみ　岩本秀安　小林隆彦（野崎東病院）

21. 尿管ステント留置にて改善している尿管坐骨ヘルニアの１例
　　○宮元耀嗣　上村敏雄（宮崎県立日南病院）

22. 移植片採取に難渋した陰茎異物肉芽腫の１例
　　○伊藤歌織　小林 皇　萬谷和香子　岡部 洸　京田有樹　橋本浩平　田中俊明
　　舛森直哉（札幌医科大学）
　　相神なほ（同　形成外科学）

＜共演者追加のお知らせ＞

※一般演題（1）演題番号 1 に以下の共演者が追加になりました。

1. 宮崎大学医学部泌尿器科教室における 2024 年の臨床統計
○石川裕隆　藤永映人　榊結女　田代尚己　近藤誠　大橋かすみ　久嶋嵐　小島慎平　植野尭　伊藤歌織　藤田直子　飛田卓哉　中原梢　村嶋隆哉　藤井将人　永井崇敬　髙森大樹　鬼塚千衣　西本紘嗣郎　上村敏雄　澤田篤郎　向井尚一郎　賀本敏行（宮崎大学）

＜演題追加のお知らせ＞

※一般演題（1）演題番号 6 に以下の演題が追加になりました。

PSA failure 後のカバジタキセル療法継続についての検討
○小迫太一　大塚武　山下康洋（宮崎県立延岡病院）

【抄録】
目的
PSA failure 後もカバジタキセル（CBZ）療法を継続する症例は一定割合存在し、その有効性は不明である。本研究は CBZ 投与中に PSA failure をきたした患者において、同治療を継続する有効性を比較することを目的とした。
方法
過去 10 年間に CBZ 療法中に PSA failure となり、3 コース以内に CBZ 療法を終了した群（7 名）と継続した群（13 名）に分けて後方視的に比較検討を行った。
結果
PSA failure からの生存期間は継続群で長い傾向にあった（4 vs 20 ヵ月、$p<0.01$）。
結論
当院では CBZ 療法に耐用能がある患者に主治医判断で CBZ 療法が継続されることが多かった。本検討では継続群の生存期間が長い傾向にあるが PSA failure 後の治療継続を積極的に推奨はできず、患者背景や前治療のさらなる検討が必要である。

＜演者変更のお知らせ＞

※一般演題（2）演題番号 11 の演者が変更になりました。

11. 当院でのアンドロゲン除去療法・ダロルタミド・ドセタキセル併用療法（triplet 療法）の報告
○木村友哉　三宅那央　上別府豊治（古賀総合病院）

↓　↓　↓　↓

11. 当院でのアンドロゲン除去療法・ダロルタミド・ドセタキセル併用療法（triplet 療法）の報告
○脇村那央　木村友哉　上別府豊治（古賀総合病院）